【都市計画変更の理由】

３・５・2号学校通線は、昭和２１年に都市計画決定され、都市計画道路橘通線（国道１０号）の通称江平五差路を起点とし、都市計画道路黒迫通線、同和知川原通線、同祇園通線と交差し、大淀川左岸の祇園１丁目を終点とする、都市内幹線道路です。当路線の終点側延長L=約８８０mの区間においては、計画幅員W=15mに対し現況幅員W=11mであり、未整備区間となっています。

宮崎市の都市計画道路は、戦後まもない昭和21年の戦災復興の都市計画により、現在の都市計画道路網の原形が構築されました。その後、人口の増加に伴い市街地が拡大する社会を見据え、長期的に必要とされる人口密度や市街化規模等に対応できるよう、適宜、都市計画道路の追加または変更を行ってきました。

昨今では、少子高齢化や人口減少が進む中、社会経済情勢の変化を踏まえ、本市は、持続可能な都市構造、「多拠点ネットワーク型コンパクトシティ」を目指しており、計画決定された当時の必要性や位置付けに変化が生じている路線や、長期にわたり事業未着手となっている路線が存在しております。

こうした社会経済情勢の変化などを踏まえ、長期未着手となっている36路線の都市計画道路について、「必要性」や「実現性」に関する評価を行い、令和元年9月に「都市計画道路見直しに関する基本方針（以下、基本方針）」を改訂し、公表しました。

この基本方針において3・5・2号学校通線について、周辺道路を含む道路交通体系等を総合的に検討した結果、未整備区間の内、3・5・3号祇園通線から終点までの延長L=約370mの区間においては、主要な拠点、施設等へのアクセス機能が低くなっているほか、路線の配置状況から将来の交通需要の増加や混雑緩和への効果は低いと予測されることから、現在の社会情勢の変化に即して、一部区間を廃止し終点位置を変更するものです。